



◆ 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

月間 \ 旬別	上旬		中旬		下旬		月間		コメント
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5月平均気温（℃）	13.4	14.0	15.6	14.0	17.5	16.1	15.5	14.7	平年比+0.8℃
5月降水量（mm）	9.5	19.4	3.5	26.0	33.5	29.3	46.5	74.7	平年比 62%

- 5月上旬は、夏日を2日観測したが、平均気温はやや平年を下回った。また、降水量も平年比 49%と先月に引き続き乾燥状態が続いた。（5/3 27.1℃、5/8 27.8℃）
- した。極端な土壌乾燥はある程度解消された状況。
- 5月中旬は、夏日を7日観測し（5/11～14、19～20）、最高気温の平均が平年を 4℃上回り、平均気温も平年を 2℃弱上回った。また、降水量は平年の 13%と極度の乾燥状態が続いた。加えて、強風の日も多かった。（瞬間最大風速 10m 以上 8 日）
- 5/21 に合計 29.0 mm（時間最大 6.5 mm）まとまった降雨を観測した。5/26～27 に 4.5mm の降雨を観測した。5/21 の降雨と併せて、土壌水分はある程度確保できた状態である。（5/26 夜半に 4.0 mm）
- 5月下旬は高温となり、最高気温が平年比+2.2℃、平均気温は平年を 1.4℃上回った。また、降水量は、5/21 にまとまった降雨を観測し、平年比 114%となった。（真夏日：2 日、夏日：5 日、5/21 合計 29.0 mm）
- 5月の平均気温は、中下旬が高温となり、平年を 0.8℃上回った。また、降水量は、上中旬が平年を大きく下回り、平年比 62%となった。また、上旬は瞬間最大 15m 級の強風の日が多かった。

◆ 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

- 5月初旬の高温により、ケムシ類が急激に発生した。特にケムシ類（マイマイガ）の発生量は昨年より多い。発生が目立つ園では、開花期に殺虫剤（ジアミド系）を散布するなどの対策を講じた。
- 5月に入り、枝単位の枯れこみ（凍害）が散見される。発生量は近年では一番多い状況。
- 腐らん病の発生が多い。本格的な梅雨に入る前に、病斑部の削り取りや抑制処理を進める。
- 4月～5月上旬までの極端な乾燥により、うどんこ病の発生が見られる。紅玉・つがる・スイートに多い状況。
- ここまで高温・乾燥状態で経過しているため、黒星病の感染はほぼ無い状況。
- 落花後から、アブラムシ類・ハマキムシ類の発生が目立つ。薬液がかかりにくい部分では葉の被害等の被害が散見される。落花後の薬剤散布である程度防除できた状況。
- 土壌乾燥や開花期の強風により、めしべ等が乾燥し、ふじにカラマツが多い。結実後の中心果の肥大のバラツキが目立つが、素質の悪い果実や着果位置の悪い果実も含めて生産量は確保できる見通し。
- 結実後の主要生産量は、つがる・秋映・スイート・ゴールドは前年対比 100%を見込む。ただし、極端な乾燥による初期肥大不良により、早生種は玉サイズダウンが心配される。また、ふじは、中心果の結実程度を考慮し前年対比 90～95%を見込む。
- 5月末現在では、つがる・秋映等の果面サビは無い状況。（結実後に雨が無いことが影響か？）

1. ふじの仕上げ摘果について

◆ 実施時期

満開後 60 日頃（本年は 7 月 10 日頃）が基本！

◆ 適正着果基準

- それぞれの品種で必要葉枚数や着果基準が異なる
- ふじ 1 果実に必要な葉枚数：60～75 枚（意外と多くの葉が必要）
- ふじは 4～5 頂芽に 1 果が基本（結果枝 30cm に 1 果位が目安で進める）

品 種	必要葉枚数	着果基準
つがる、シナノスイート	45～60枚	3～4頂芽に1個
シナノゴールド、秋映	60枚	4頂芽に1個
ふじ	60～75枚	4～5頂芽に1個

*1頂芽15枚と計算（徒長枝の葉は数えないこと！）

◆ 仕上げ摘果を行う順序

- ① 面積、樹齢、樹勢（弱いものは早く）、結実量や凍霜害の程度等によって変わってくるが目安として、秋映・玉林 → スイート・ゴールド → つがる → ふじの順序で進める。
- ② ふじは早期に摘花又は予備摘果を行い、仕上げ摘果は7月上旬頃に実施することで省力化と肥大促進が図られることが確認されている。

◆ 仕上げ摘果で除去したい果実（次頁図1参照）

- ① 障害果（変形果、キズ、サビ、病虫害）
⇒ 変形果、果面のサビがひどい果実、病虫害の被害を受けている果実
- ② 生育が不良な小さい果実
⇒ 種入りの悪い果実は小玉になる可能性が大
- ③ 日焼けや逆さ実になりそうな果実
⇒ 年中直射日光が当たっているところへ着果している果実はなるべく除去する
- ④ 果台の異常に長いところへ着果している果実
⇒ 現状は大玉であることが多いが、収穫時に青玉果（光玉）になりやすい

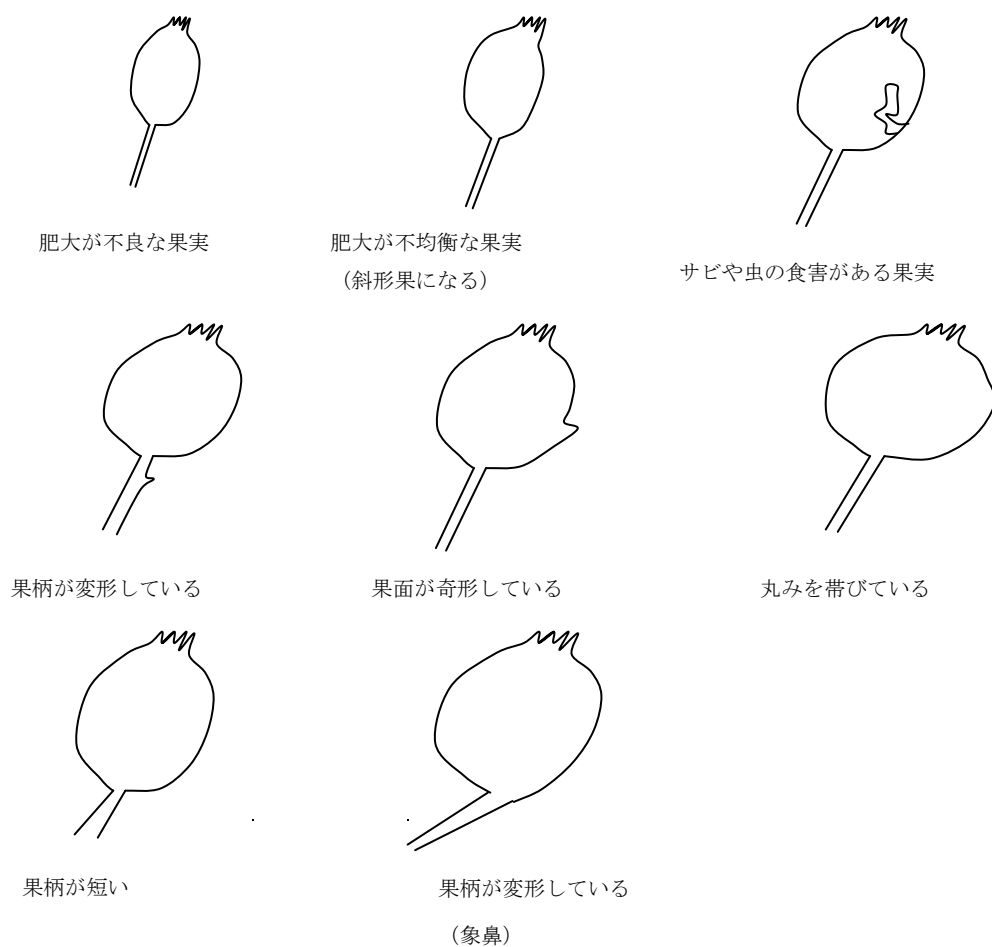


図1 仕上げ摘果で除去したい果実



← 青玉果（光玉）除去対策（写真参照）

本年も果台が異常に長いものが目立ちます。ここに結実した果実は、今現在大きくとも、後に青玉（光玉）になる可能性が高いので仕上げ時にできるだけ除去するようにしましょう！

◆ ポイント

- ① 若木の骨格枝育成や伸ばしたい枝の先端部には着果させない。
- ② 日焼け果になりやすい位置の果実。一年中、日当たりの良すぎる果実より、多少葉陰になる果実が好ましい。（特に盛夏期の強日照が予想されるので注意したい）
- ③ 日当たりの良い枝と悪い枝では着果量を加減する。日当たりの良い枝は多めにつける。
- ④ 樹勢によっても着果量を加減する。弱い樹は少なく、強い樹は多めにつける。
- ⑤ 同じ側枝内なら、良い果実が一部に偏っていても良い。休ませる枝も作ることも必要。
- ⑥ 肥大しても枝にあたらず傷がつかない果実。収穫時には縦横10cm前後は肥大する！
- ⑦ 太い結果枝より落ちていた枝（果台を何回も通ったもの）で細い結果枝の果実。（図2参照）
- ⑧ 生姜芽になると肥大が悪くなるので、適宜発育枝を確保し、樹勢を維持する。
- ⑨ ふじは、摘果時が濃緑の果実は地色が抜けにくい果実となりやすい。（窒素過多）
- ⑩ ふじは、果台が2cm以上の長いところへ結実した果実はできるだけ除去する。

果台と果台枝に注目しよう！
果台枝がいつまでも伸長している果実は、摘果時にいくら大きくても良い果実にはなりにくい。生育が進むにつれ肥大が止まり、逆に小玉で地色が抜けにくい果実になりやすい。

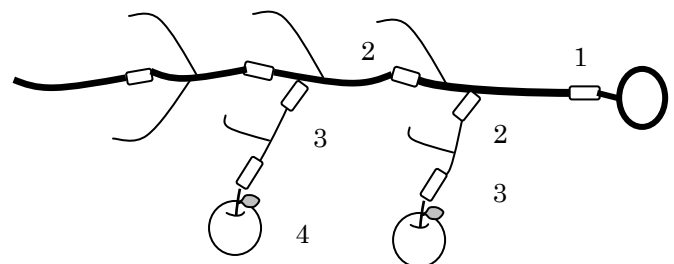


図2 着果させたい結果枝

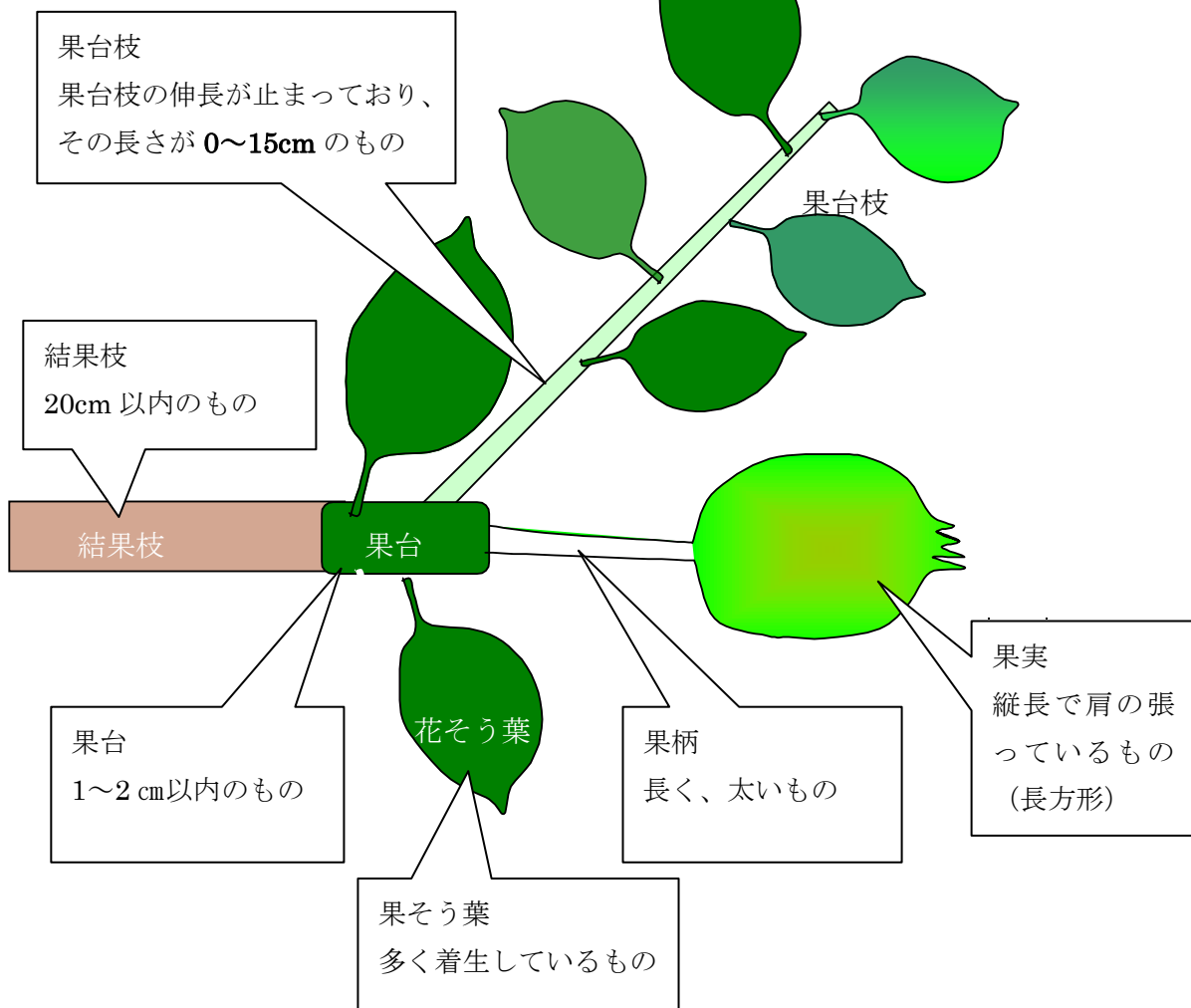


図3 りんごの名称と”ふじ”の摘果注意点

2. 秋映・スイート・ゴールドの仕上げ摘果のポイント

品種毎の特徴を把握し、良品生産につなげましょう！

◆ 秋 映（千秋×つがる）

- ① 側花（果）はつるサビの発生が多い ⇒ 中心花を残す
- ② 開花が早いものほどサビの発生少ない ⇒ 開花が遅い花は花そう毎摘み取る
- ③ 早期の着果制限は、サビの発生が少なくなる ⇒ 摘花
- ④ 仕上げ摘果は、サビの程度が判別できる満開 6 週間位から始める
- ⑤ がくだちから 1 ヶ月以内は果実に触れないこと（サビの発生）
- ⑥ 果実が垂れ下がる様になると、サビ果の発生が少なくなる
- ⑦ 果形のバラツキが大きいので、素性を良く見て摘果する

◆ シナノスイート（ふじ×つがる）

- ① 早期のあら摘果（満開～満開後 3 週間）は、心カビ病の発生が多くなる
⇒ 満開後 3～4 週間に予備摘果・・・樹勢が弱い場合は早期に着果制限する！
- ② 側果はつるサビが発生しやすい ⇒ 中心果を残す
- ③ 指で摘果すると、花そう毎とれてしまう場合がある
- ④ 予備摘果が満開 3～4 週間後、仕上げは早く実施する。
- ⑤ 果実に縦筋が入る場合があるので注意する
- ⑥ 着果過多は隔年結果となりやすい
- ⑦ 肥大が良すぎる場合は、基準よりやや多目の 3～4 頂芽に着果させ肥大を抑える
- ⑧ 肥大が良すぎる果実は着色が劣る

◆ シナノゴールド（デリシャス×千秋）

- ① 側果はつるサビが発生しやすい ⇒ 中心果を残す
- ② 樹勢が落ち着くと花芽着生が良好 ⇒ 摘果に時間がかかる
- ③ 開花のバラツキ、果形のバラツキが大きい
- ④ 幼果時の果形が悪い（果頂部に段差がある）果実は、できるだけ摘果する
- ⑤ 着果過多は、糖度が低く、収穫期も遅れる傾向がある。また、隔年結果の要因となる。
- ⑥ 仕上げ摘果時で 3～4 頂芽とし、その後の肥大に応じて 4～5 頂芽に修正する
- ⑦ 遅れ花に結実した果実は摘果すること

品 種	摘 花		あら摘果	仕上げ摘果	備 考
	腋芽花	側 花			
秋映	花摘み	一輪摘花	—	サビの発生が確認できる満開後6週間で降から実施	一輪摘花はサビの発生が軽減する
シナノスイート	花摘み	×	満開後3～4週間の間	満開後60日以内に実施	あら摘果が早いと心カビ病の発生が多くなるので、摘果時期注意
シナノゴールド	花摘み	満開後30日以内までに一輪摘花(摘果)		満開後60日以内に実施	着果が多いので順次摘花(摘果)を進める

表 1 中生種の摘果のポイント

3. 夏季管理について

7月～8月の花芽分化期を迎える前に夏季管理を徹底することは、充実した花芽の形成促進や病虫害防除効果を高める重要な手段である。

ここ数年、ふじの花芽の不充実が多い状況です。翌年、使う花芽にはこの時期にしっかりと日光を当てるように心がけましょう。充実した花芽を形成することができれば、翌年の収穫量確保や高品質果実生産につながります！すでに27年度の生産は始まっています！！

◆ 夏季管理のねらい

- ① 樹冠全体にむらなく日光の透過をはかり、葉の働きを盛んにし、果実品質の向上と花芽分化発達を良好にする。
- ② 薬剤散布の到達、付着を良くし、病虫害防除効果を高める。
- ③ 枝の配置を矯正し、枝の裂傷、折損の防止、樹形の維持確立をはかる。
- ④ 冬季の剪定時と違い、繁茂状態で園全体の日当たり状況が良く把握できる。日光を大きく遮る枝を見つけやすい。

◆ 徒長枝切りのポイント

- ① 実施時期：6～7月（ふじは、9～10月の着色管理の時期にも実施する）
- ② 全ての徒長枝をきれいにせん除するのではなく、幹の日焼け防止や葉枚数の確保も考慮して、30cmに1本程度は配置する。
- ③ 6月は、徒長枝の生育が盛んで、花芽分化期を控え、日照が必要となる。また、主要病虫害の防除適期となるので、徒長枝のみならず、中、小枝でも日照、薬液の到達を妨げているものはせん除する。
- ④ ふじの着色期前の（9～10月）の徒長枝切りは、日照が良く当たることを考えて行う。
- ⑤ 主枝・垂主枝等の骨格枝では、全ての徒長枝を切り落とすと日焼けをおこしやすいので細い枝を少し残しておく。
- ⑥ 結果部が外部に出て、樹冠内にはげ上がりがみられる樹では、誘引により徒長枝を利用して結実部を確保する。

◆ 誘引のポイント

- ① 実施時期：誘引は常時実施可能であるが、花芽形成促進を目的としているので、春先から6月末に実施する。
- ② 太くなりすぎて誘因が困難になった枝は、誘引する反対側に鋸目を入れたり、木質部を縦にえぐり取る等の方法で行う。（念枝）
- ③ 樹勢が強く、立ち過ぎる若木は、冬季の剪定を軽くして、誘引に重点を置くようにすると結実促進に有効である。（高接ぎ樹2～3年も同様に実施する）

◆ 日焼け防止対策

- ① 近年、増加している日焼け症状は、午後の直射光線が背に当たる北～東方向に伸長した枝に多い。枝の太さでは細い枝に発生が少なく、太い枝ほど多い。日焼け障害は、樹温が最も高まる8月に発生が多いため、とくにこの時期に防止対策が必要である。
- ② 多発しやすい枝の部分に、直射光を防ぐため、大きな日陰を作らない程度の小さな返し枝を配置するか、徒長枝を残して覆うようにする。
- ③ 高接ぎ更新樹では露出する太枝が多いので、早めに白塗剤を枝の背面を重点に十分塗布する。
- ④ 夏季の土壌乾燥を防ぐようにし、樹勢が低下しないようにする。早めの敷きワラが効果的である。（本年も盛夏期の高温・干ばつが予想されるので効果的！）

4. 6月の薬剤散布について

5月下旬から気温が非常に高い状態が続いており、急激な降雨があれば、一気に輪紋病・炭そ病の感染に好適な高温多湿状態となる。6月の薬剤散布は下記を参考にして進めてください。

6月上中旬の定期散布（前回より15日後）

散布時期： 6月5日～10日

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	*注意事項①参照
アントラコール顆粒水和剤	200g	（7日前、4回）
スプラサイド水和剤	66g	（14日前、4回） *注意事項②参照
スイカル	100g	（カルシウム剤） *注意事項③参照

対象病害虫：輪紋病・炭疽病・褐斑病・斑点落葉病

シンクイムシ類・ハマキムシ類・カイガラムシ類・カメムシ類

10アール当り散布量： 600ℓ

注意事項 *良くお読みください。

- ① 固着性展着剤のアビオンE 1,000倍を使用すると薬液が葉・果実への付着が良くなる。
- ② カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍を加用する。
- ③ スイカルに代えて、有機皮膜補助剤を含んだストピットⅡ 500倍でもよい。

↓ 輪紋病・炭そ病最重要防除期です。散布間隔は14～15日を維持しましょう！

6月中下旬の定期散布（前回より15日後） *注意事項③参照

散布時期： 6月20日～25日

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	*注意事項①参照
キノンドーフロアブル	125ml	（7日前、4回）
オーソサイド水和剤 80	125g	（14日前、4回）
オリオン水和剤 40	100g	（前日、2回） *注意事項②参照
スイカル	100g	（カルシウム剤） *注意事項③参照

対象病害虫：輪紋病・炭疽病・褐斑病・斑点落葉病

シンクイムシ類・ハマキムシ類・カイガラムシ類・カメムシ類

10アール当り散布量： 600ℓ

注意事項 *良くお読みください。

- ① 固着性展着剤のアビオンE 1,000倍を使用すると薬液が葉・果実への付着が良くなる。
- ② オリオン水和剤に代えて、サイアノックス水和剤 1,000倍（45日前、2回）でも良い。
- ③ スイカルに代えて、有機皮膜補助剤を含んだストピットⅡ 500倍でもよい。